



夏 鬱 の 終 わ り



PRESENTED BY

こりすや  
KORISUYA

とある  
晴れた  
日曜の午後

俺は  
駅前に  
自転車を止め

待ち合わせの  
場所に  
歩いて向かい

なーに  
やってんのよ  
キョン!

遅いわよっ!!

そんな  
ワケで

みんなもう  
来てるのよ!

何って  
時間通りに...

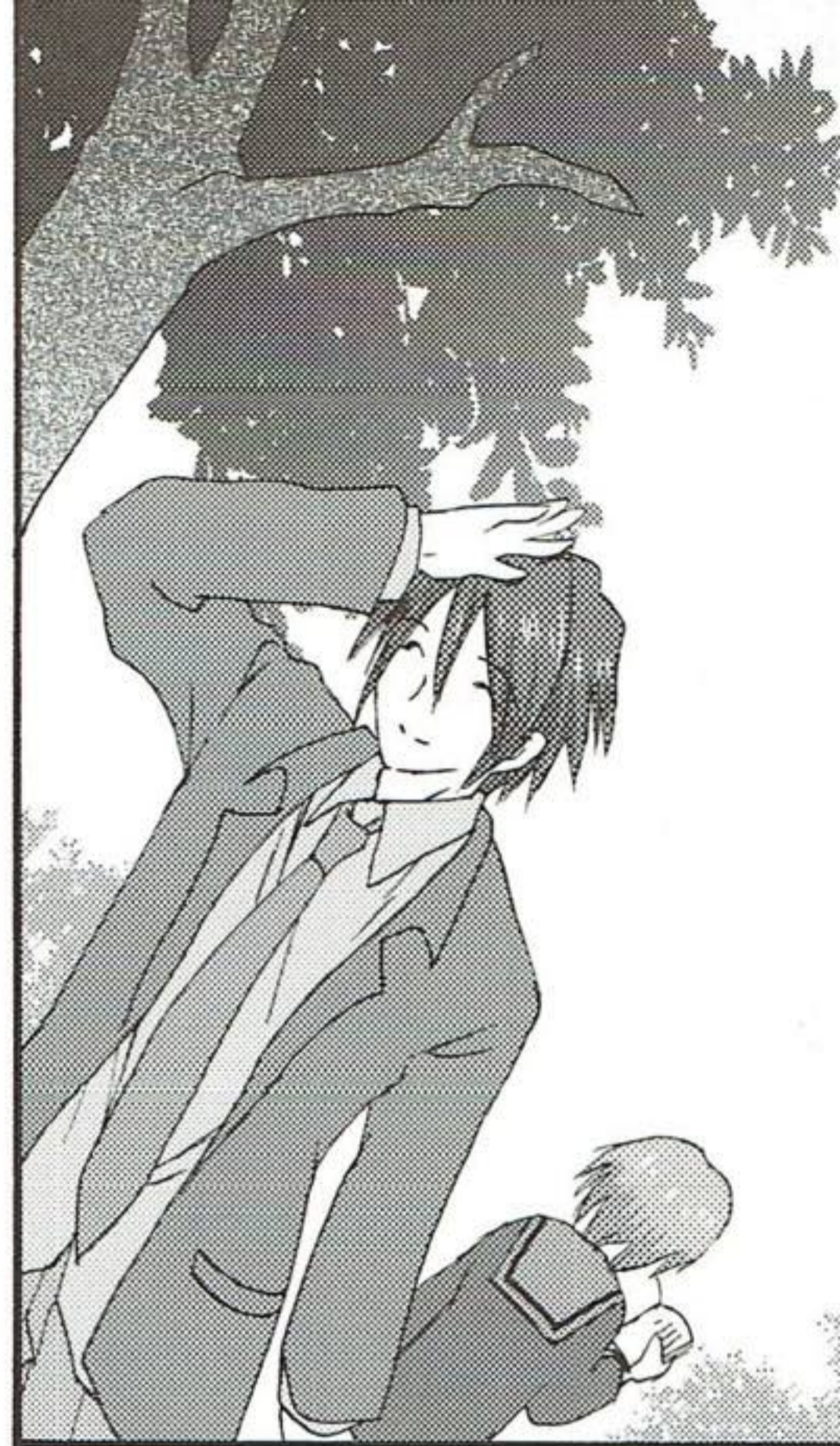
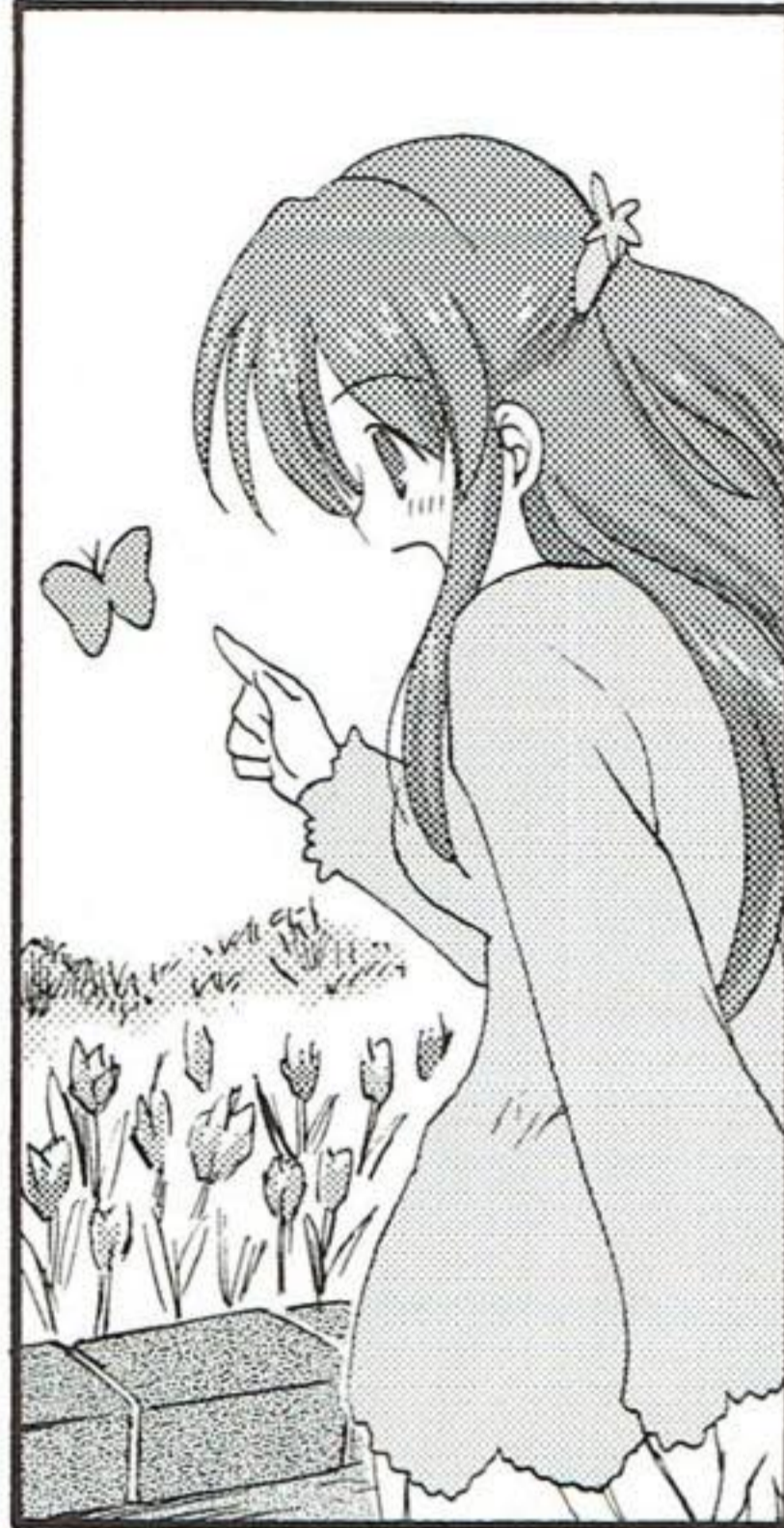
今日は  
オゴるのよ!

今日も  
みんな仲良く  
不思議探し

おまへ

当たり前と  
言うべきか

本日もちろん  
収穫ゼロ！



おーい  
もう五時に  
なるぜ

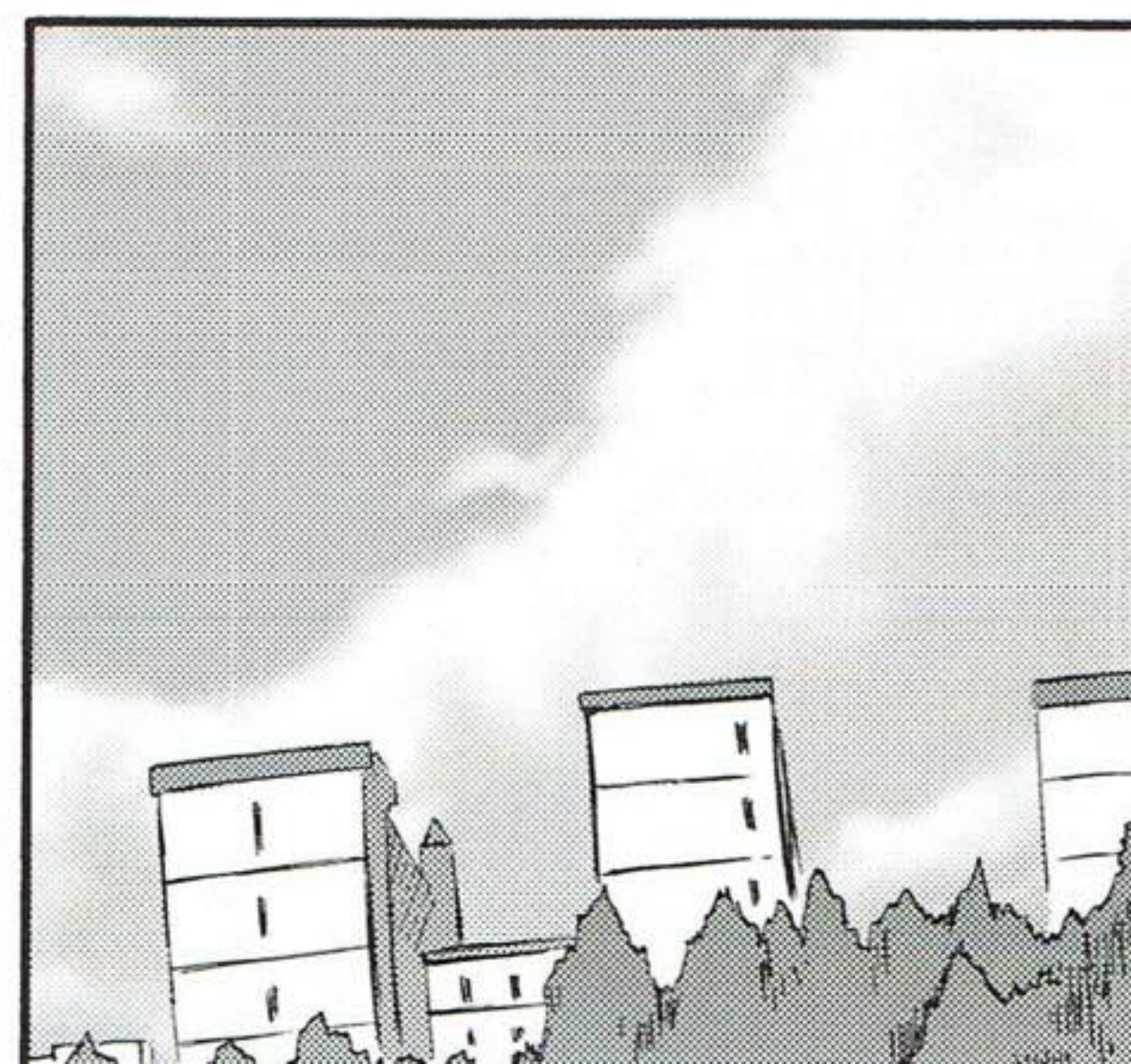


はー

つまんなーい

タイクツ  
タイクツ

なんか  
面白いこと  
ないかしら





だから

それが  
日常なんだよ!

何事も  
無いのが  
一番!

誰か  
コイツに  
わからせて  
やってくれ!

「十一」465...



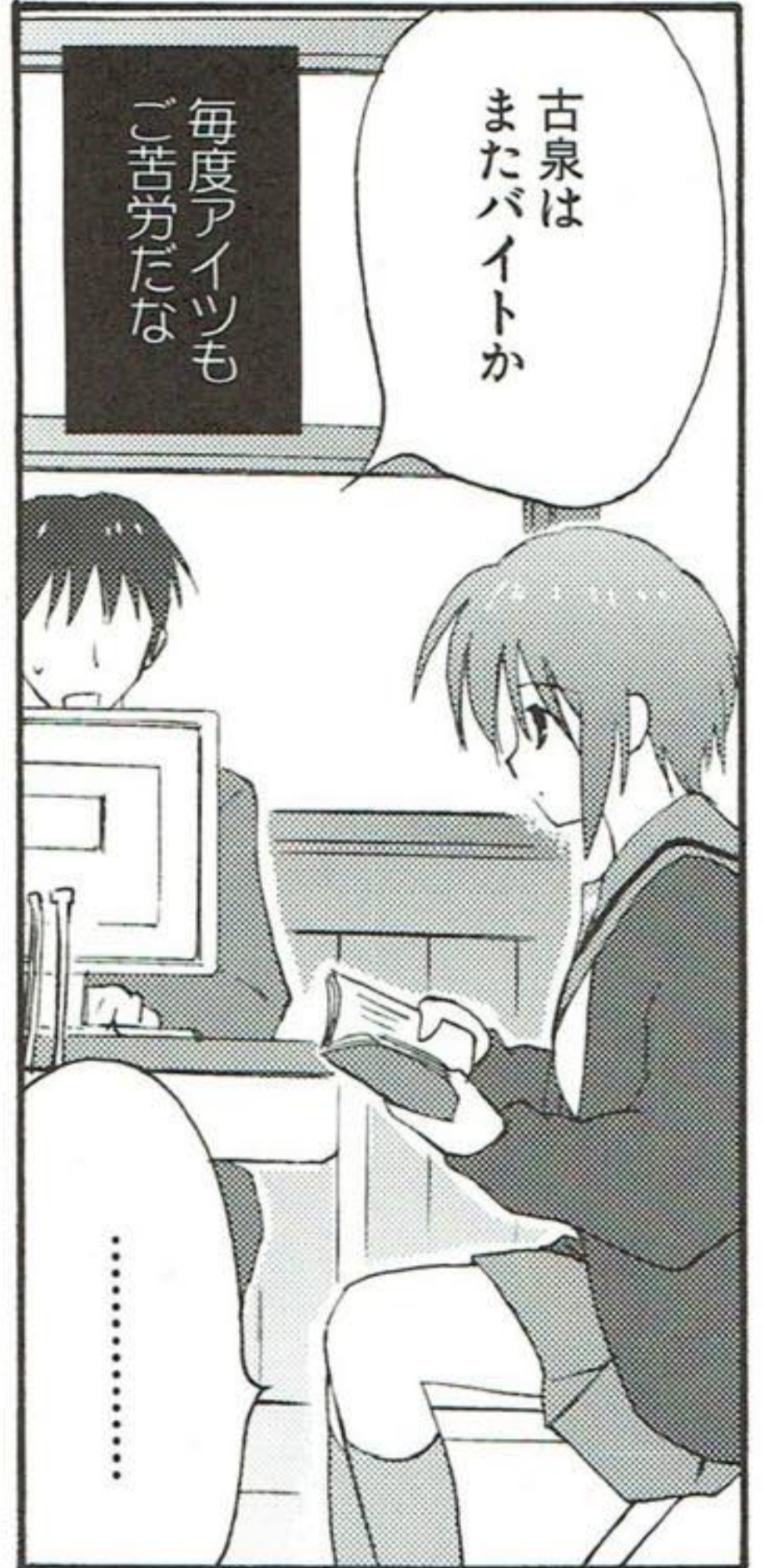
新しく買った  
衣装があるの!

着てくれる  
わよね!

ふええっ?



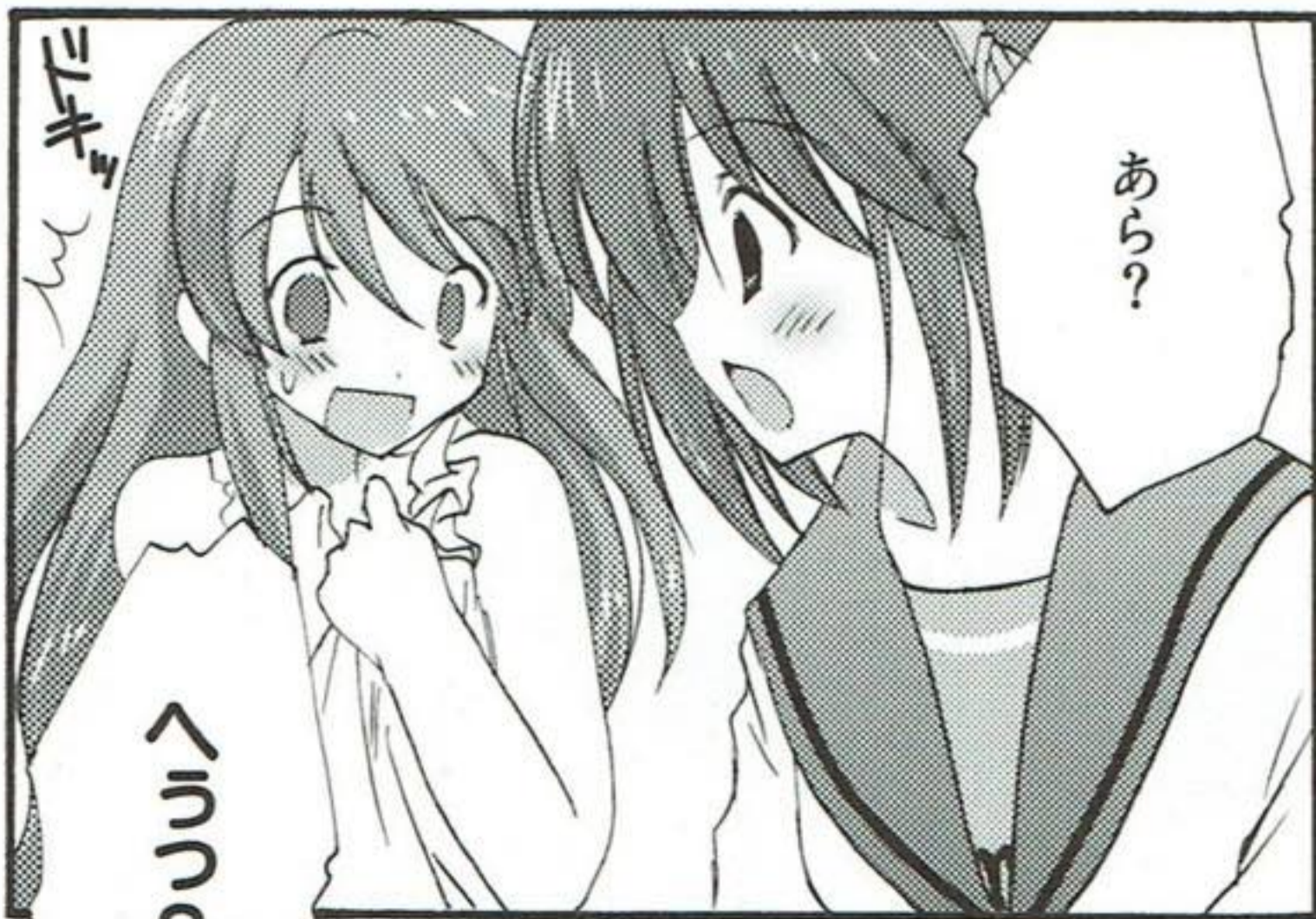
あっ  
そうだ  
みくるちゃん!



古泉は  
またバイトか

毎度アイツも  
「苦労だな

.....



あら?

「十一」465...



さあさあ!  
とっとと  
脱ぐのよ!

キョロロ  
見ないでえええ

見て  
ません...



キョンも  
そう思う  
わよね!

ねっ!

それを  
俺に  
答えろか  
なのか



みくるちゃん

もしかして  
また  
胸大きく  
なった?

ふえ...  
そうですかあ?



おはじ

いぢぢ...



かっわい♡

ほわん?

セーラーもいいけど  
ブレザーも  
萌えるわねっ!



じゃーん!

できた  
わよ♪





ひゃッ…  
ひゃああ

あゝ

あゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝ…



んっふっふっ  
こうなったら  
イカせちゃ  
おっかなろ♪

あゝ♡  
あゝ♡  
あゝ♡



気持ち  
イイでしょ♡  
みくるちゃん

きゃッ  
あッ…

あゝ  
あゝ  
涼宮ちゃん…

……



どこ  
行くのよ  
キョン

わかった!

勤っちゃったから  
トイレで  
オナニーするん  
でしょ?

あゝ  
あゝ  
あゝ

帰るだけだ!!!



もう  
ダイレクトに  
触っちゃうわ!

あゝ  
あゝ  
あゝ

あゝ  
あゝ  
あゝ



アッは  
わざと  
やつてたのか?

そんな  
こんなで

何日か  
過ぎ……



朝比奈さんは  
ハルヒの行き過ぎた  
セクハラに耐え



超能力少年  
古泉は  
大活躍し



思うように  
成果が得られず

ハルヒの  
不機嫌は募る  
一方だった



長門は  
黙々と  
読書を……



そんな日々が  
延々と  
続いていくのかと  
思っていたが……



転機はのろ  
突然  
やってきました



おわっ！

もし

もし

もし

な  
何だ今のは！



火事：  
じゃないよな

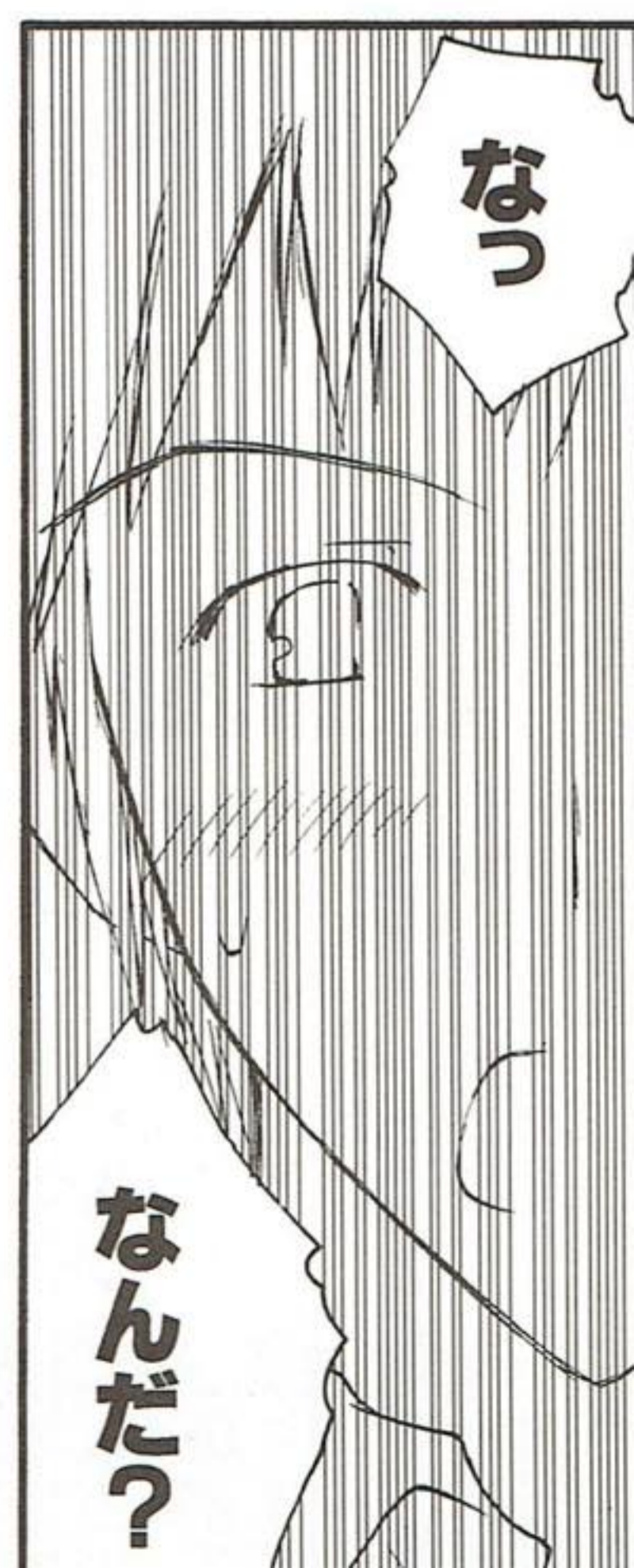
あー  
キョン

入るなら  
さっさと  
入りなさいよ



カキカ

なっ



なんだ？

その格好は！！





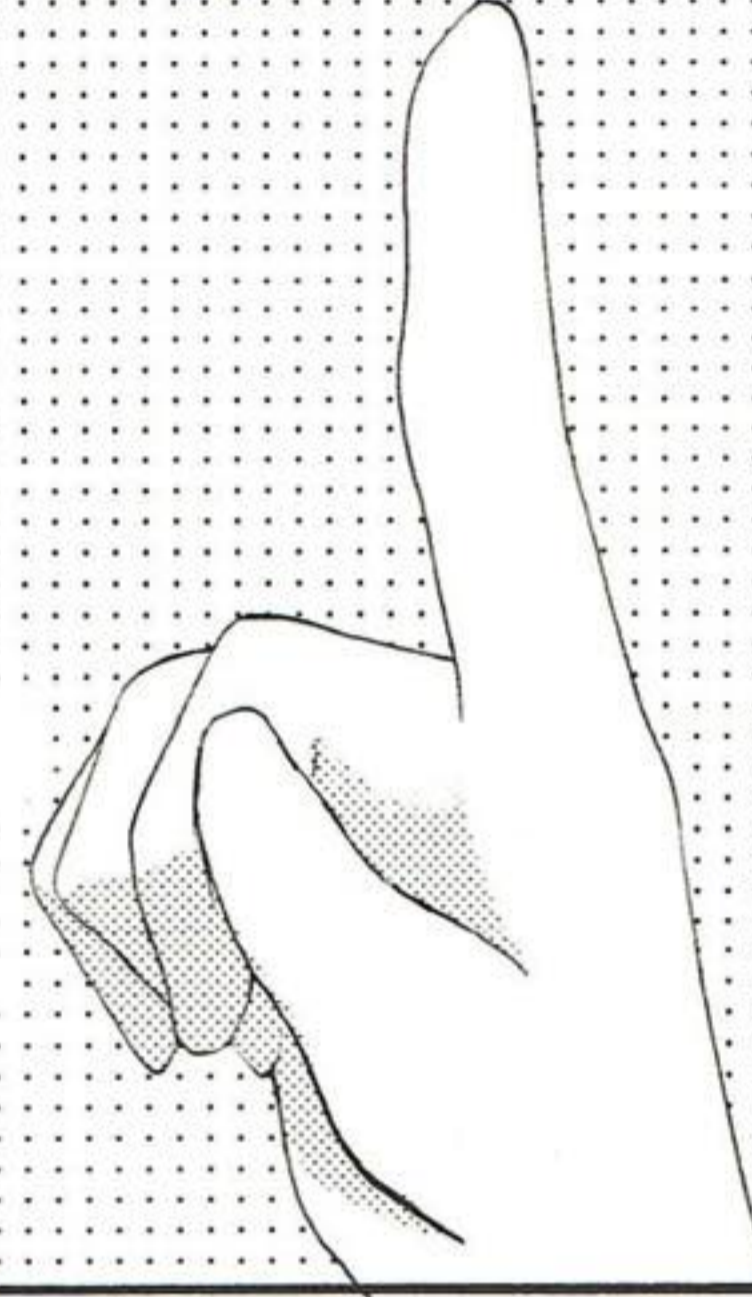
じゃあ  
例えば

「キョンが  
北高に合格した」  
という事実が  
成立するためには…



「合格するための学力」  
「試験時間に合わせて  
会場にいた」  
「試験時の体調」など

いくつかの条件が  
そろって  
生まれた結果  
なのよ



はあ……

……



つまり何か  
起こるのは

そのための  
条件がそろった  
瞬間に発動するの！

この世界で  
起きる物事は  
すべて

**必然なのよ！**





だから  
とりあえず

何か  
起こりそうな  
魔術を  
試してみることに  
したのよ

だからって  
こんな  
オカルト  
まがいな…



やってみなきゃ  
わからない  
でしょ！



あらっ！

この魔術  
イケニエが  
必要なのね



宇宙人か  
未来人か  
超能力者が  
出てきたら  
儲けモノってやつよ

頼む…

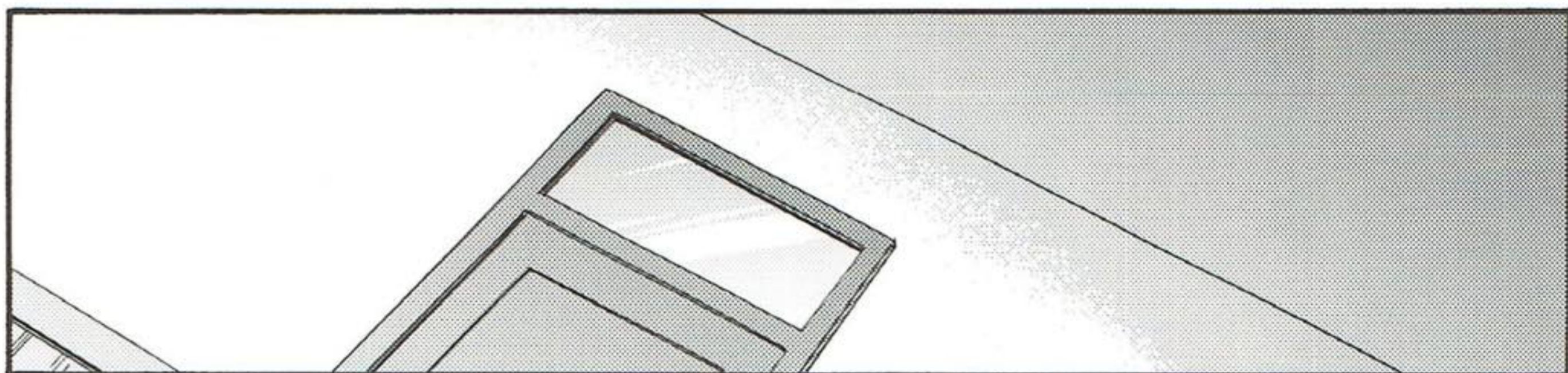
今すぐ  
後ろを  
振り返って  
くれ…

今なら  
3点セットだ…



バカバカしい

誰が  
そんなもの…





朝比奈みくる  
長門有希  
そして僕が  
一堂に会したのは

涼宮さんが  
望んだからに  
他ならない

けれど……



彼女の  
言う通り

偶然だと  
思っていることは  
すべて必然か



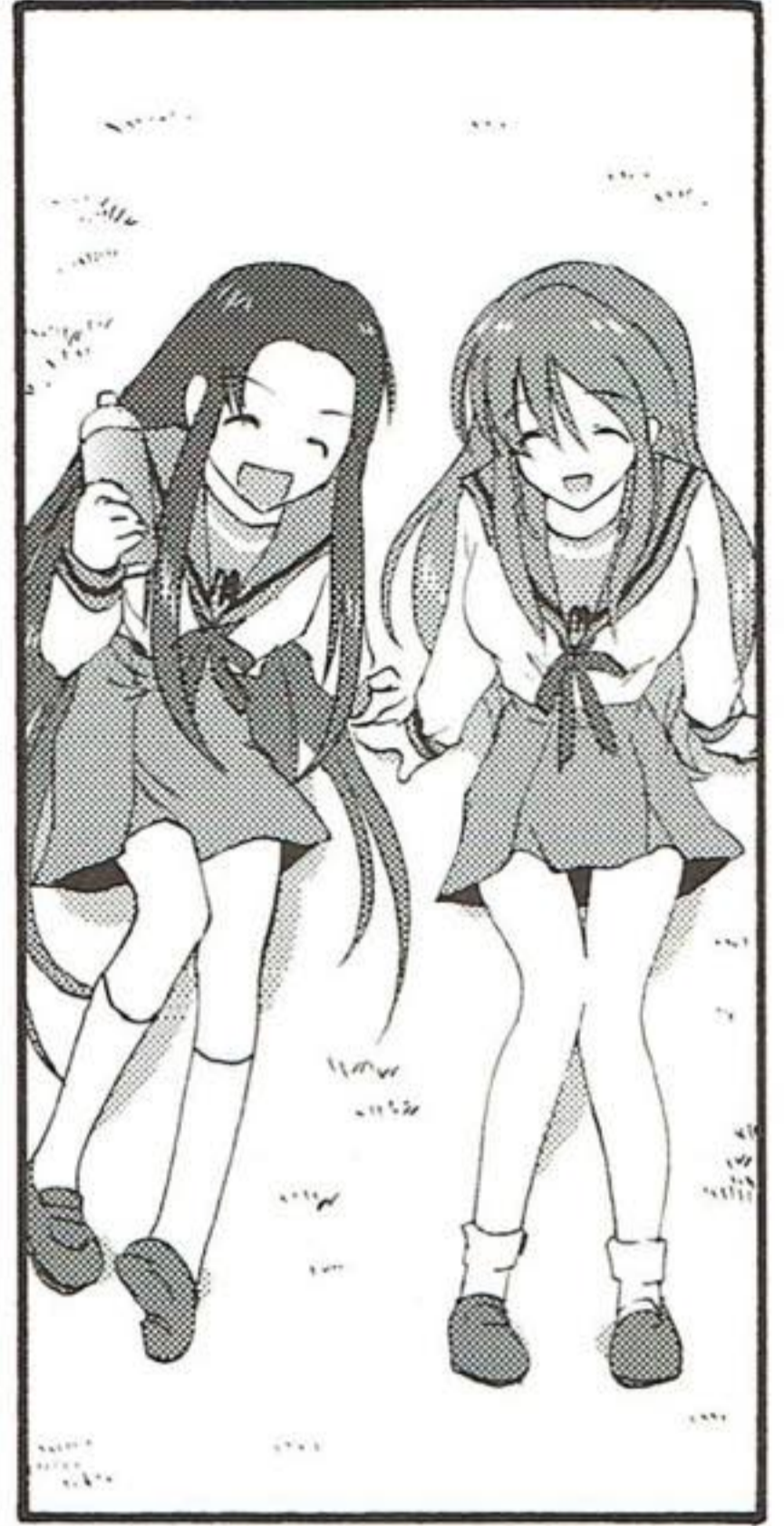
はたまた  
その逆か



そこに  
貴方が存在している  
ことも  
お忘れ無く

—  
?







—  
…

そうね…



またさっしゆか

だいたい  
お前は

具体的に  
どんなものが  
見たいんだ…



中学の時校庭に  
ミステリー  
サークルを  
描いたら  
怒られたから

他にいい場所は  
無いかしら



ここまで  
手を尽くして  
ダメだった分

どうせなら  
飛びっきりの  
すごいのが  
いいわ!

例えば—



世界が  
一瞬にして  
壊れてしまう  
くらいの!

?!



ヤバイ  
重症だな

さっさと  
病院へ  
行ってくれ

いつだったか  
変な夢を  
見たわ

あんたと  
2人きりで  
夜の学校にいる  
夢よ

そういえば…

え…

それって…

巨大な  
バケモノが  
校舎を壊して  
暴れ回っていて

あたしが  
面白がって  
いたら

あんたが突然  
ポニーテールが  
どうか  
言い出して…

それで  
最後に…

!!



とっ  
とっかへっ

夢だったの!!

その夢なら  
俺も  
見たぜ...

...なんて  
言えないけどな



その夢が現実にな  
っちゃうくらい  
すっごいヤツ!

退屈な日常を  
全部粉々に  
しちゃうような  
のよ!



だからね!



しかし  
なんで俺

あの時  
とあの  
キスなんか!!

田舎

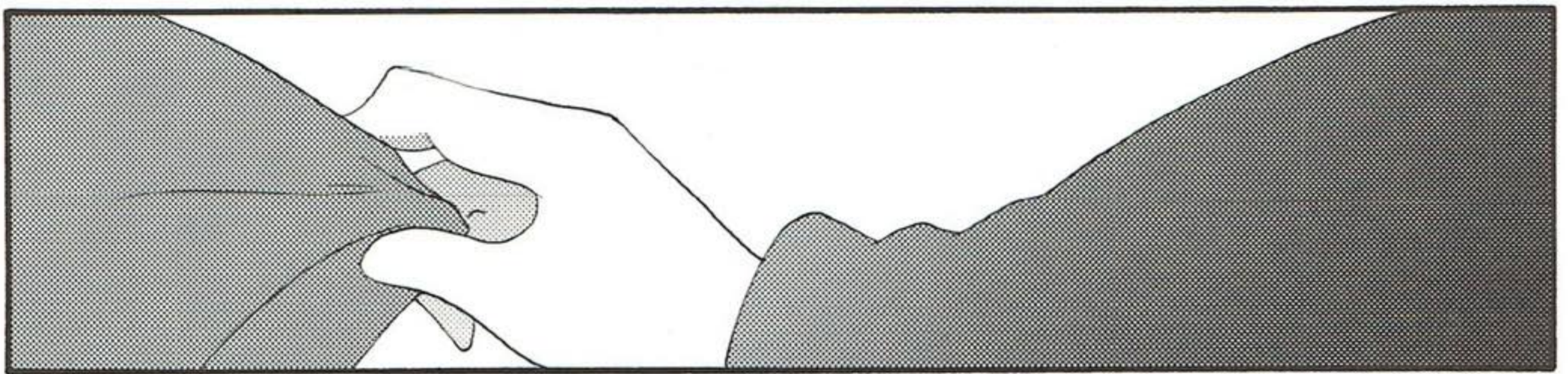


...

マネダ

俺はその  
望みを叶えてやれる  
方法を  
知ってるんだぜ

あいつは  
なんか  
知らないけどな



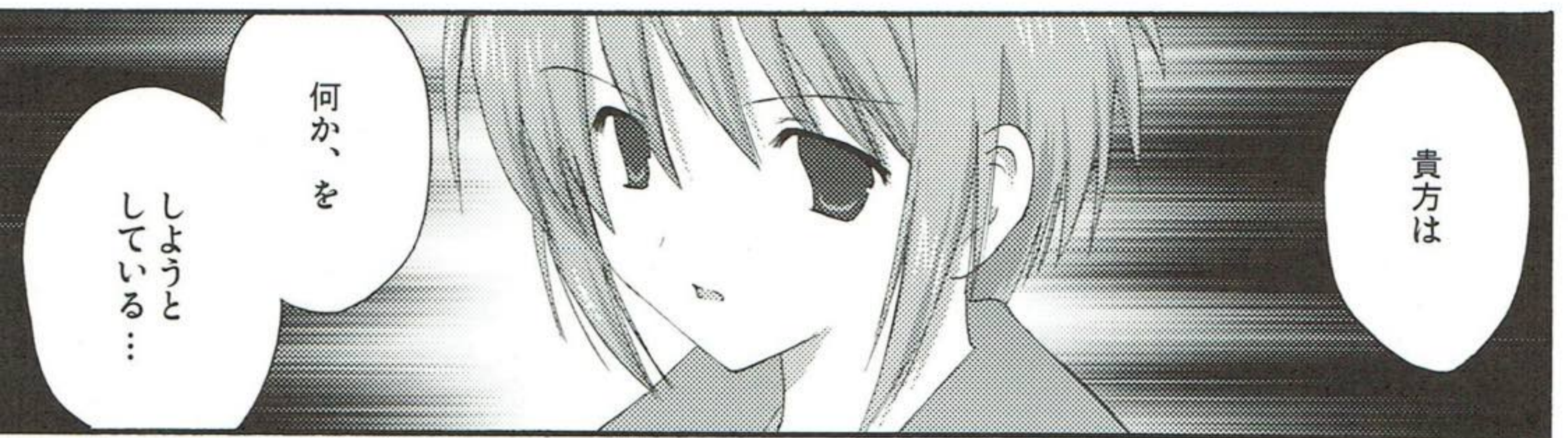
長門!



何のマネだ

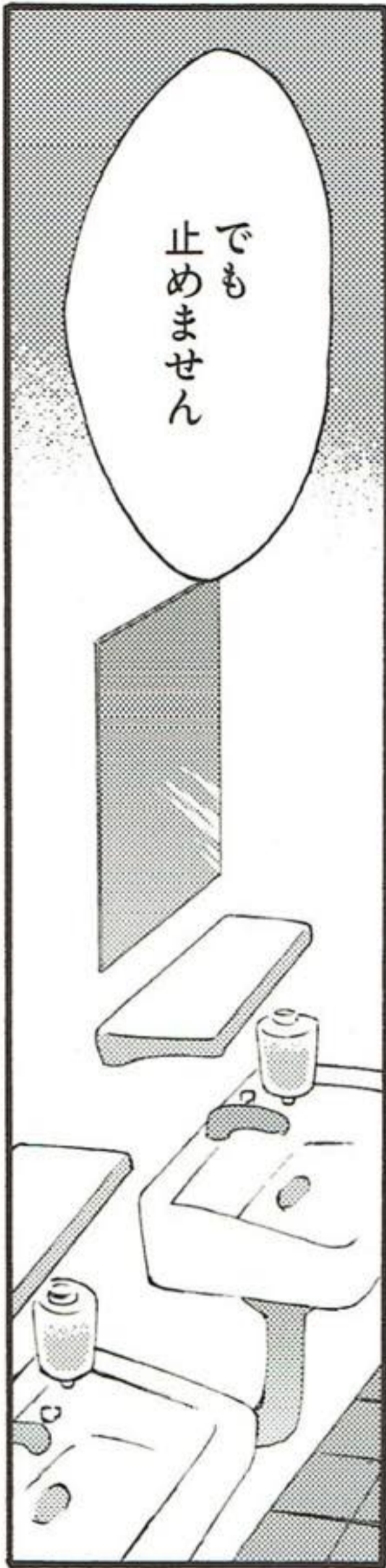


!





皆さんと  
楽しく過ごして  
いたかったのですが



そこから  
新しい世界が  
始まるだけです



あ…

まあ…

考え事  
ですかあ？



キョンくん？



わー

違いますー！

今日のお茶  
美味しく  
なかつたのかな…



よかったら  
なんでも  
相談して  
下さいね

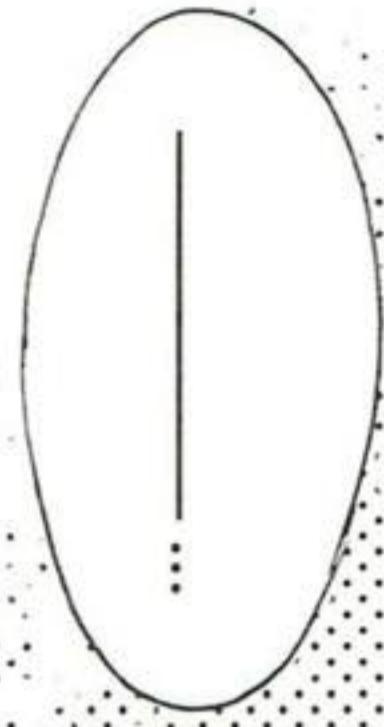
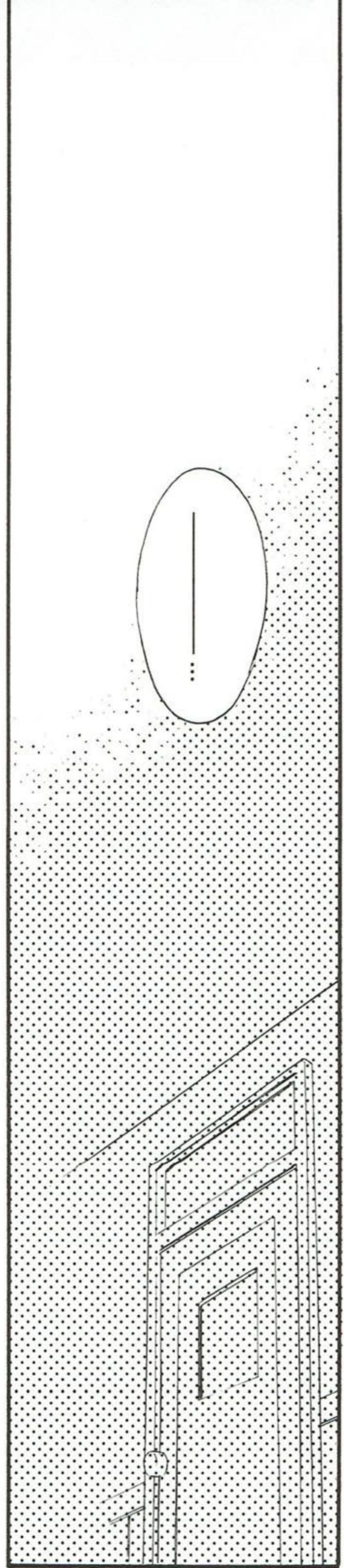
癒わねる…



長門も  
古泉も  
何を言っているんだ

俺は  
誰より  
日常を愛する  
男だ！

この世界を  
変えようなんて  
酔狂なことは  
思わない





さーて  
今日は

どの衣装が  
いいかしら

だけど

ドーン



俺も  
ハルヒに  
毒されたのか？

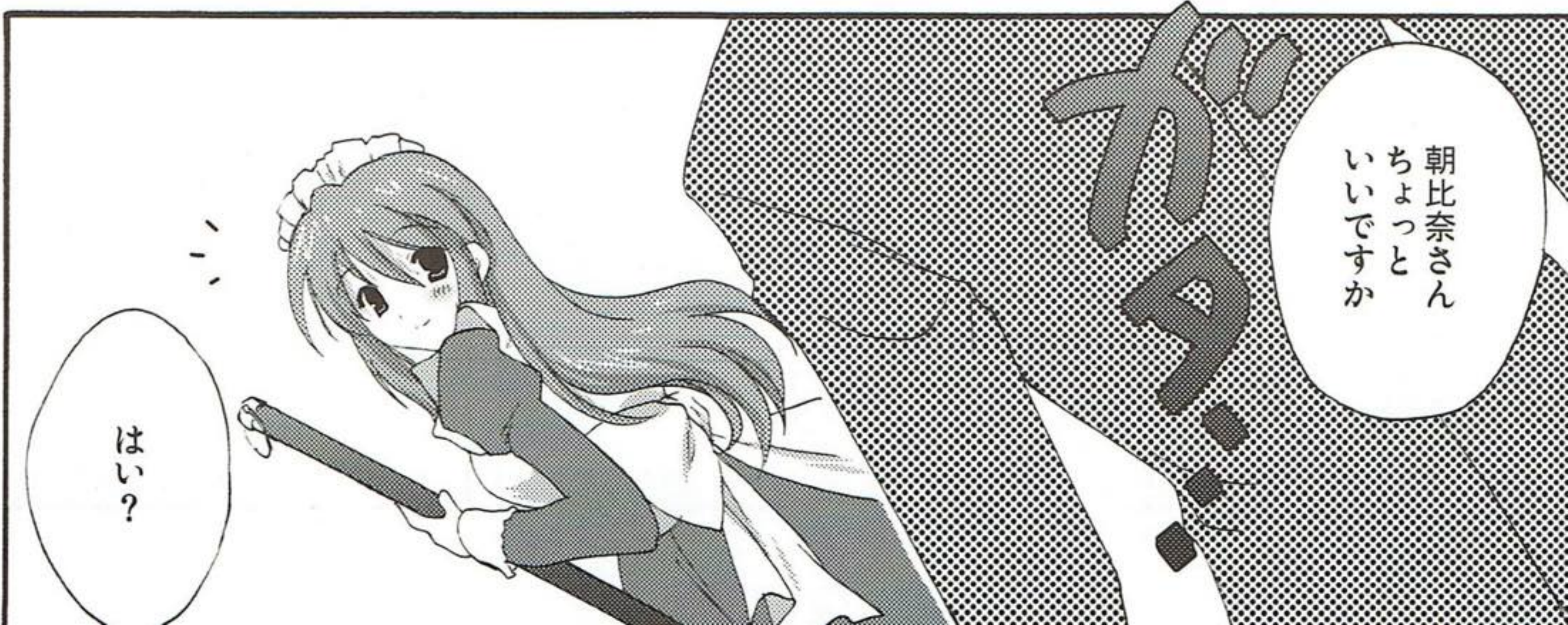
それとも  
単なる  
好奇心？



こことは  
違う世界が  
あるのなら

見てみたい

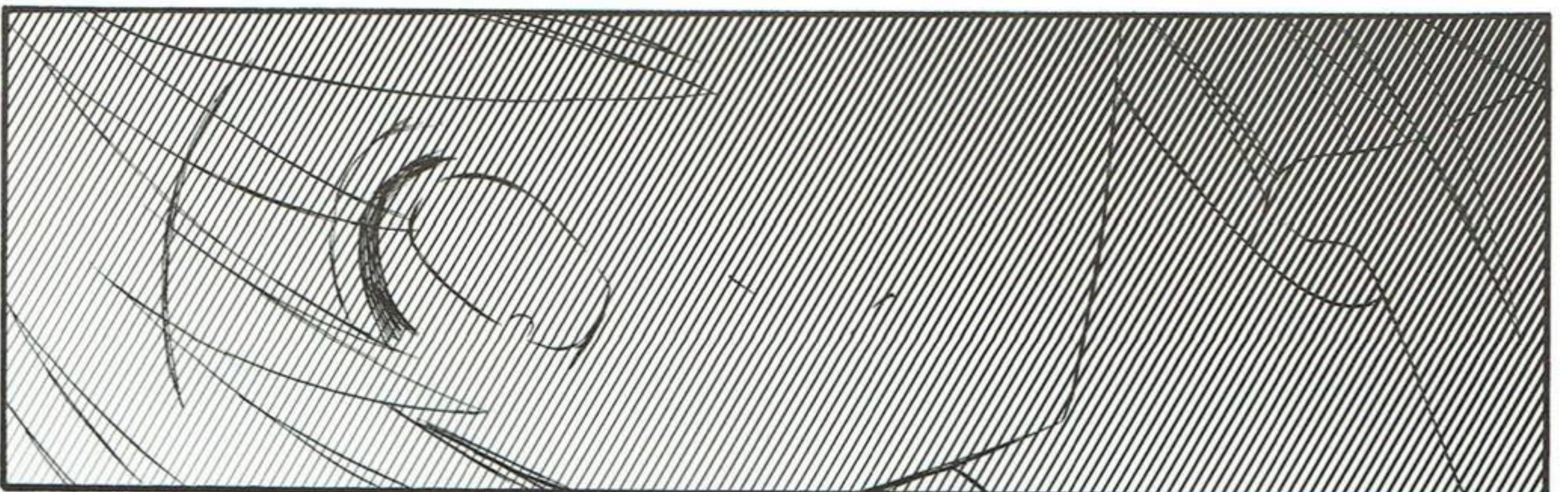
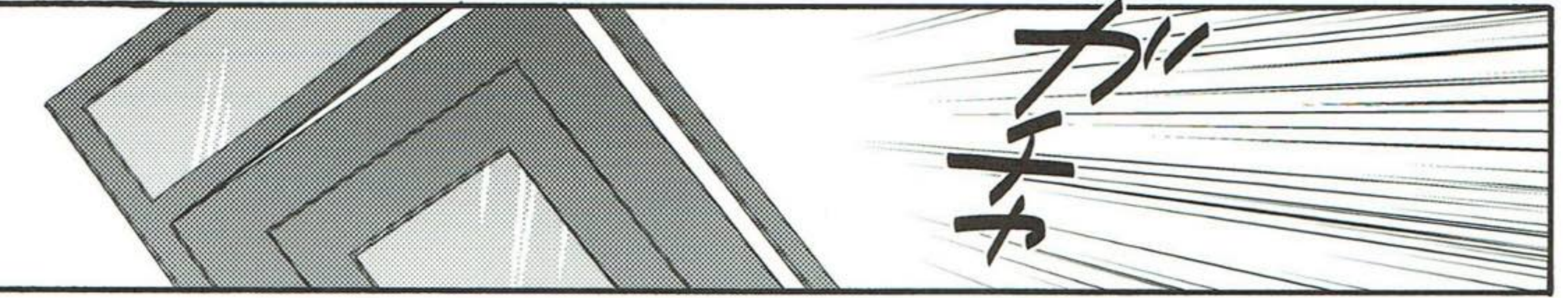
ミト



朝比奈さん  
ちよっと  
いいですか

はっ？

ガッ





これで  
今夜は——

いえ  
別に……

古泉のマネが  
したくなった  
だけです

?

?  
どうしたん  
ですか?

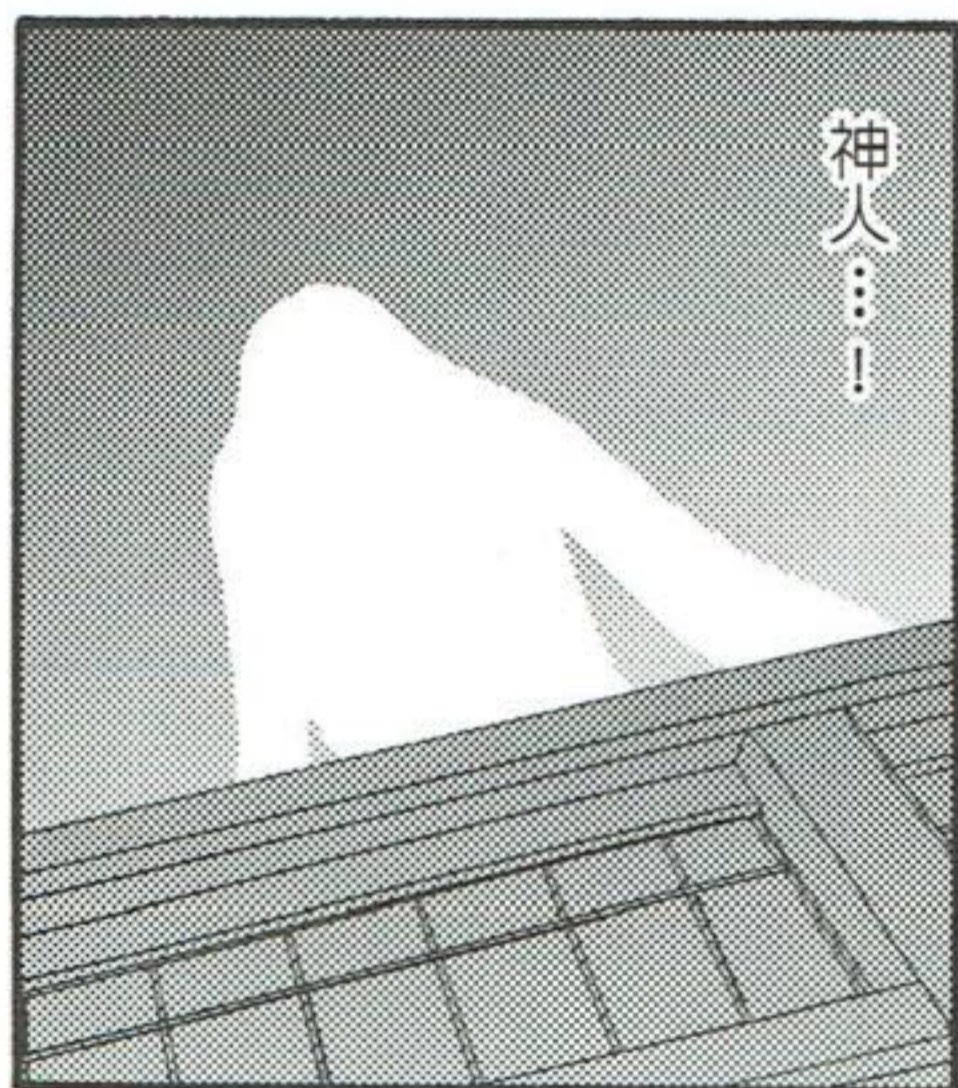
急に  
顔を近づけて  
きたりして

あ、  
涼宮さん……

……

……  
キ……

……



閉鎖空間……!!

ここには  
俺たち  
2人だけ……



今なら  
いい画が  
撮れそうだわ!

デジカメ  
取りに  
行かなきゃ

お……おい  
勝手に  
1人で行くな

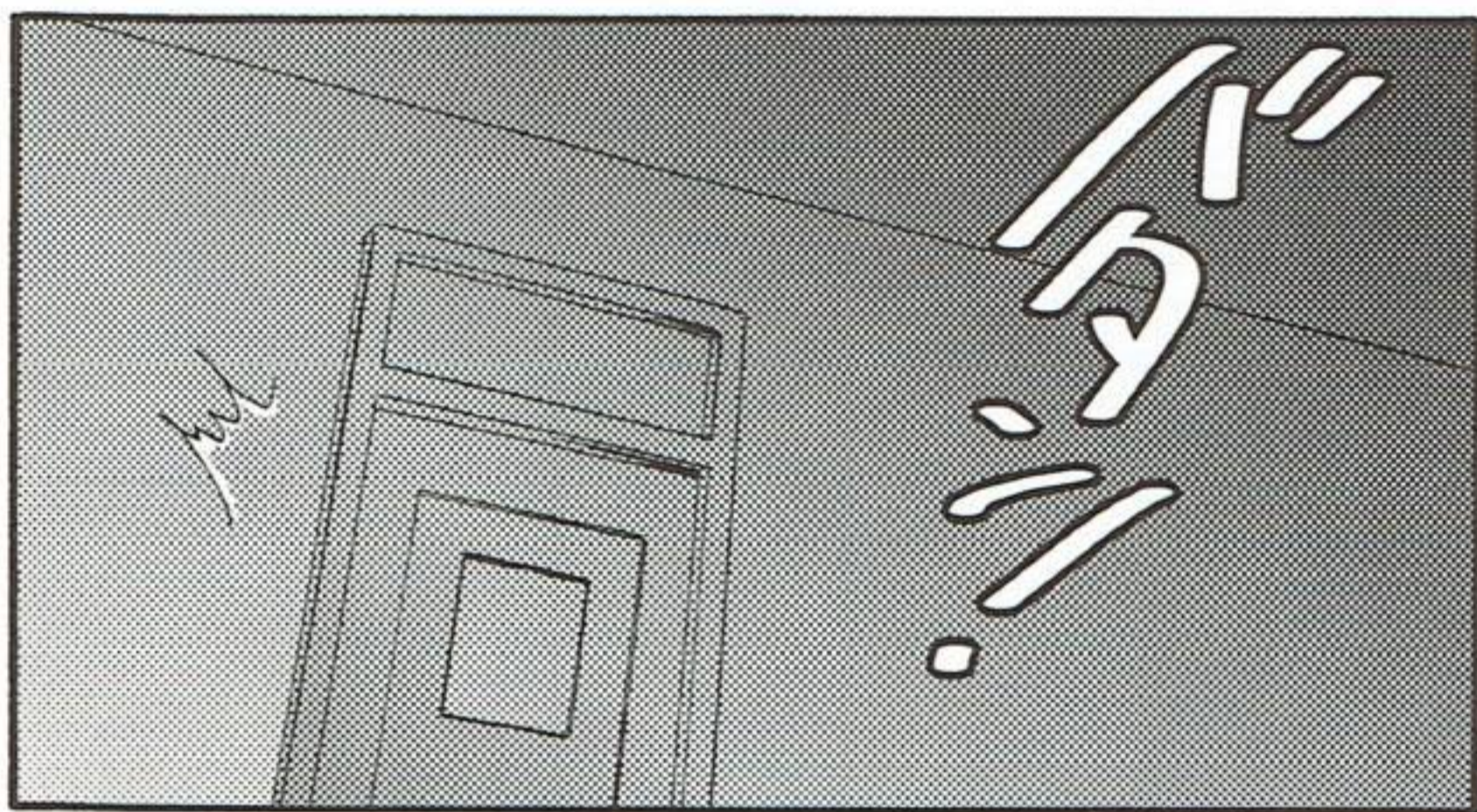
早く  
来なさいよ



そうだわ!



バ  
タ  
ン!

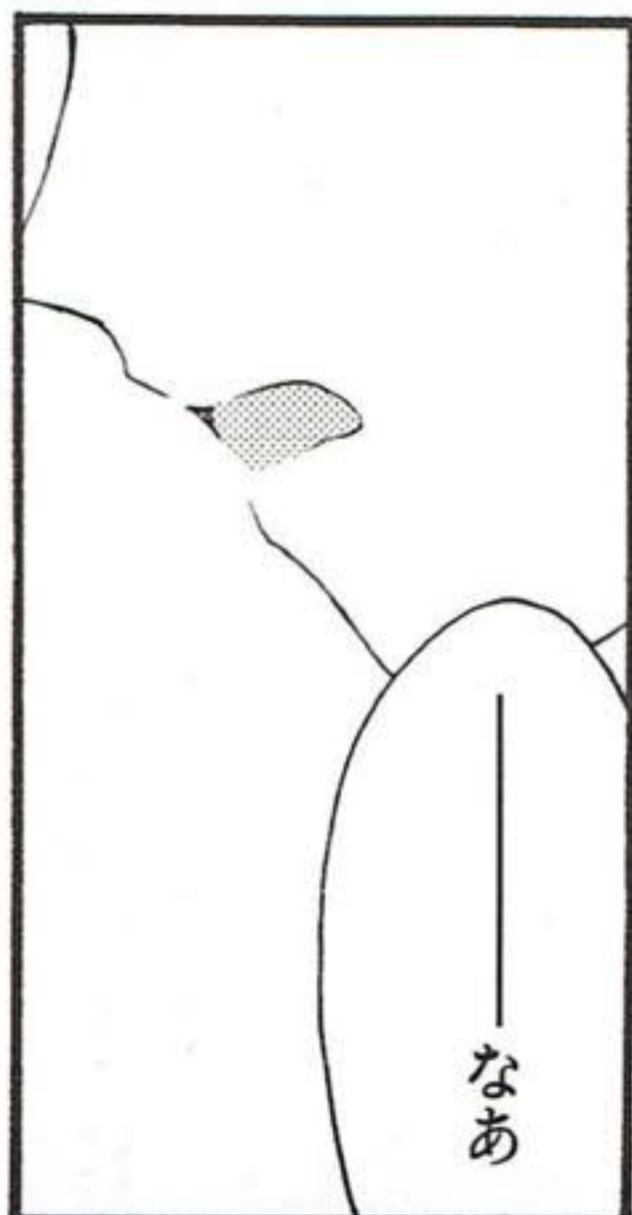


あ!  
あったわ

まだコレ  
撮れる  
わよね?

——  
なあ

何よ



俺たちが今  
ここにいる  
のって

単なる  
偶然だと  
思うか？

はあ？

お前  
ひとり  
じゃなくて

同じ年に  
生まれて

同じ学校で  
同じクラスに  
なって

それが  
全部

偶然だったと  
思うか？

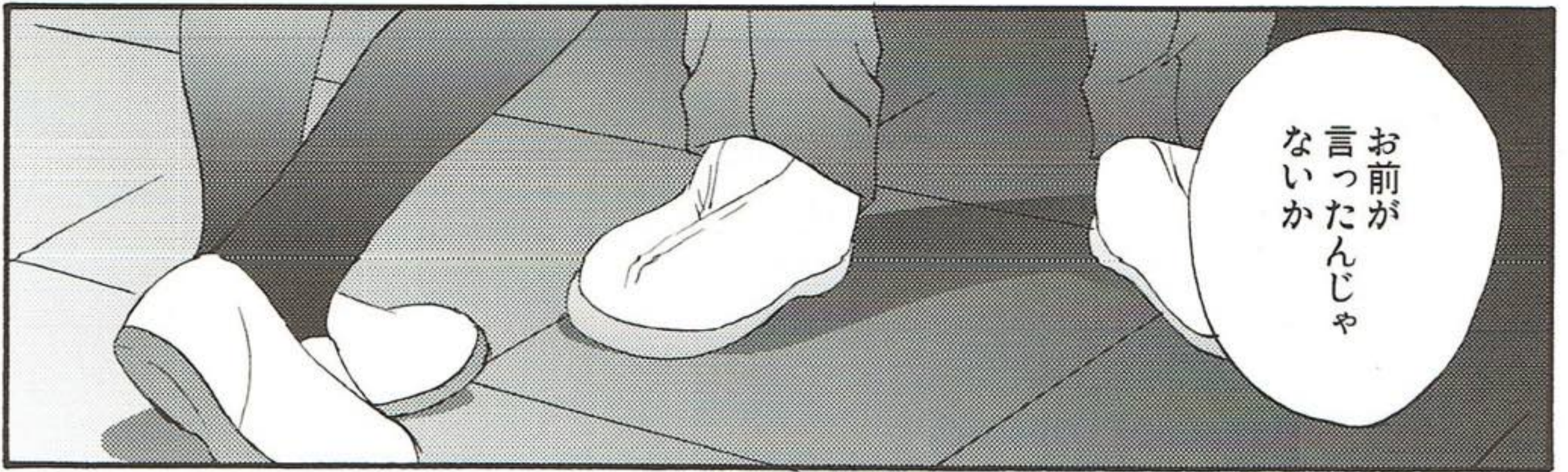
.....

俺と  
涼宮  
なんだぜ？

ここに  
いるのは



お前が  
言ったんじゃ  
ないか

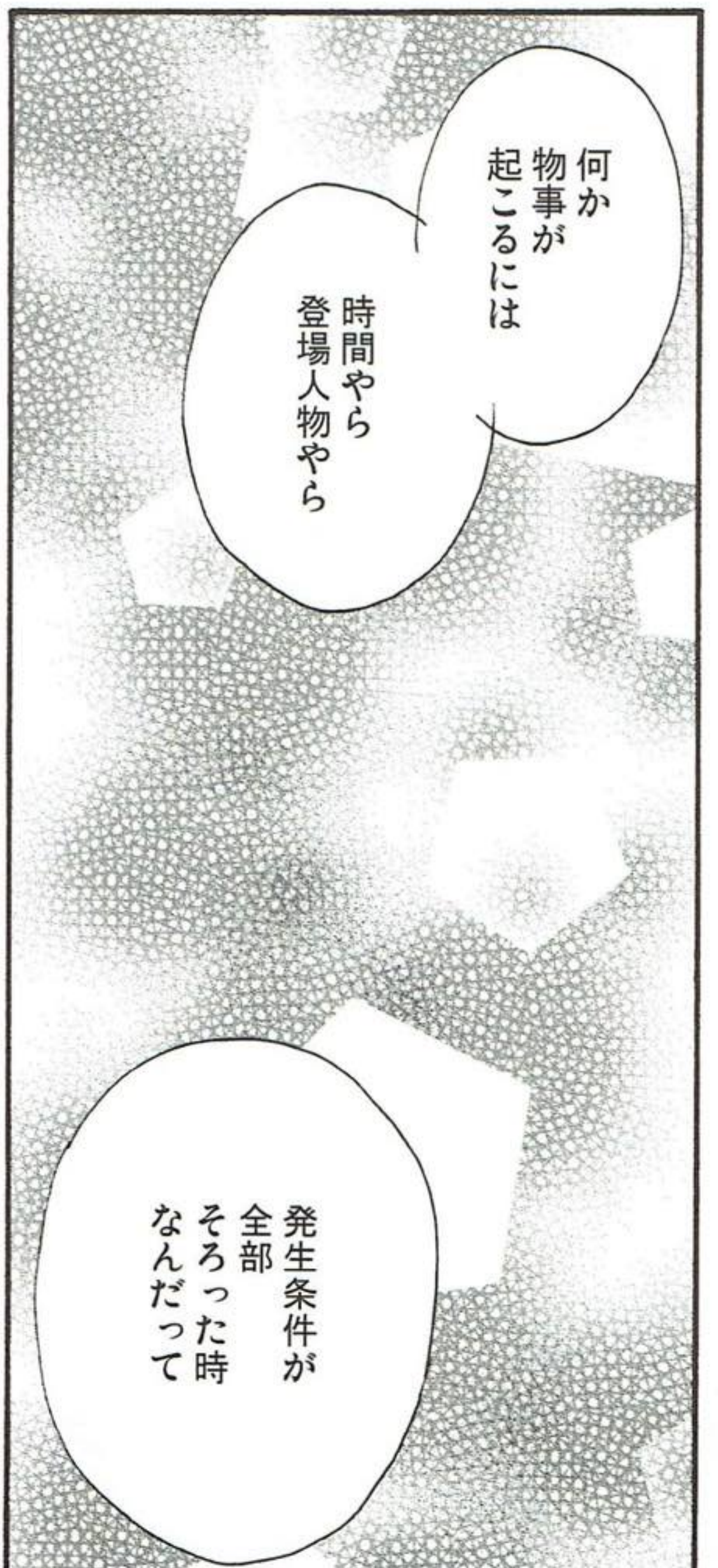


だから…

お前が俺を  
ここに  
呼んだってことは…



…



何か  
物事が  
起こるには

時間やら  
登場人物やら

発生条件が  
全部  
そろった時  
なんだって

！  
放課後…

みくるちゃんと  
キスしてた  
じゃない…

してないっ

あれは  
芝居だ

お前の出方を  
確認したかった  
だけだ

もう  
これからは

自分の望み通りの  
世界を  
作ろうとする  
必要はない

長門も  
古泉も  
ハズレだ

俺が  
見たかった  
世界は—

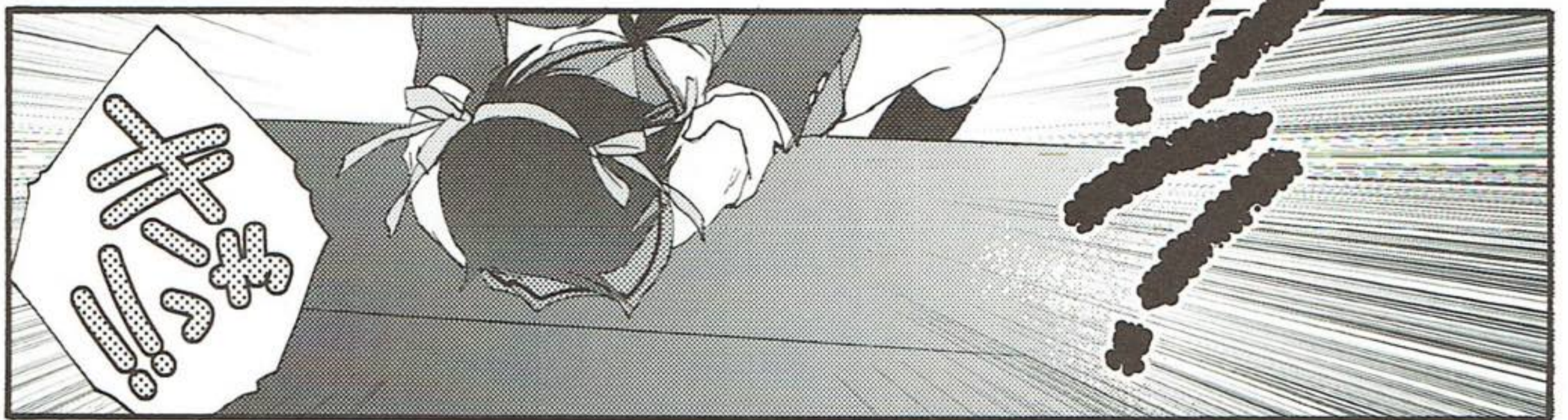
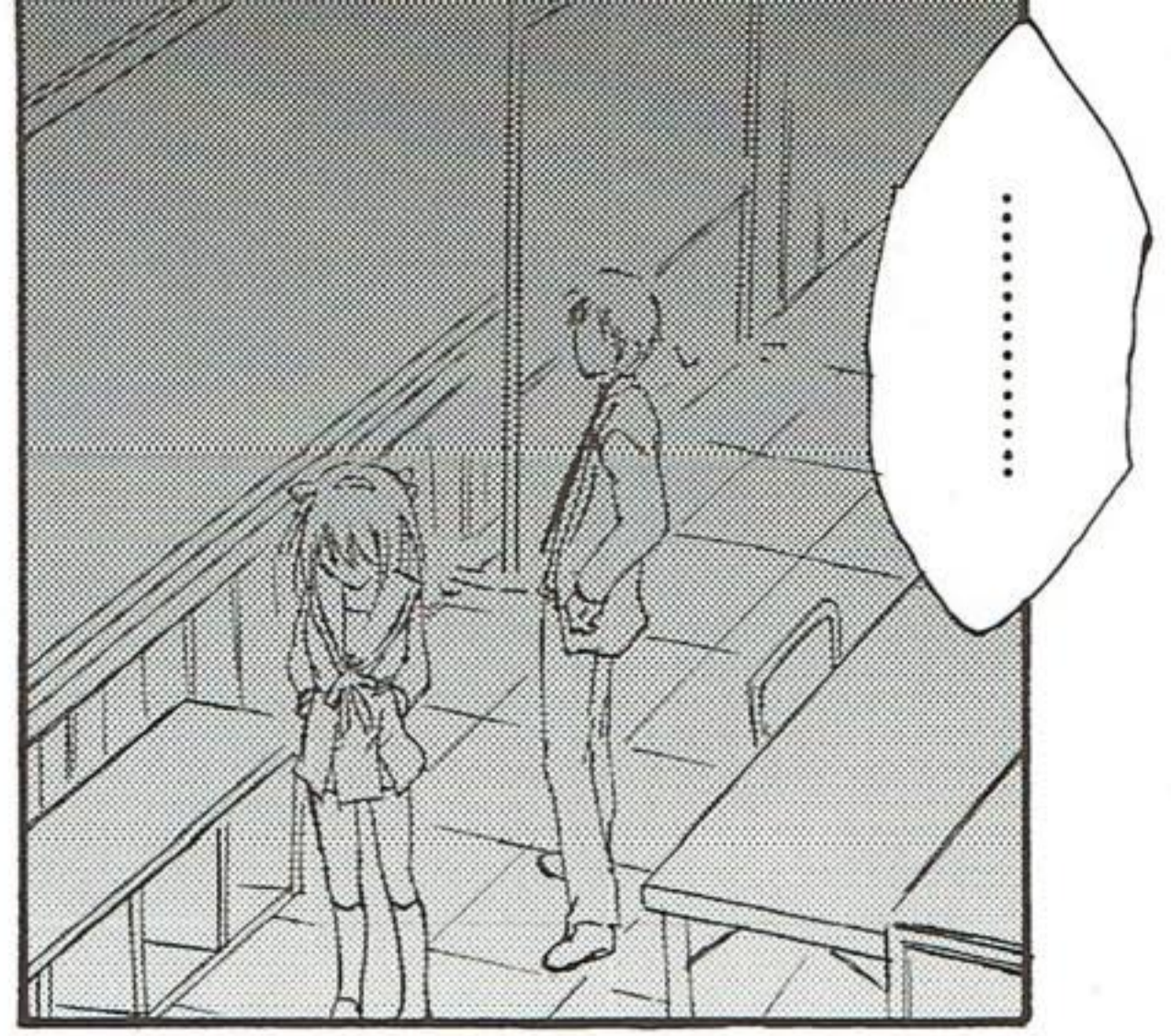
2人きりの  
世界じゃない

俺は  
お前のことが  
好きだから

元の世界で

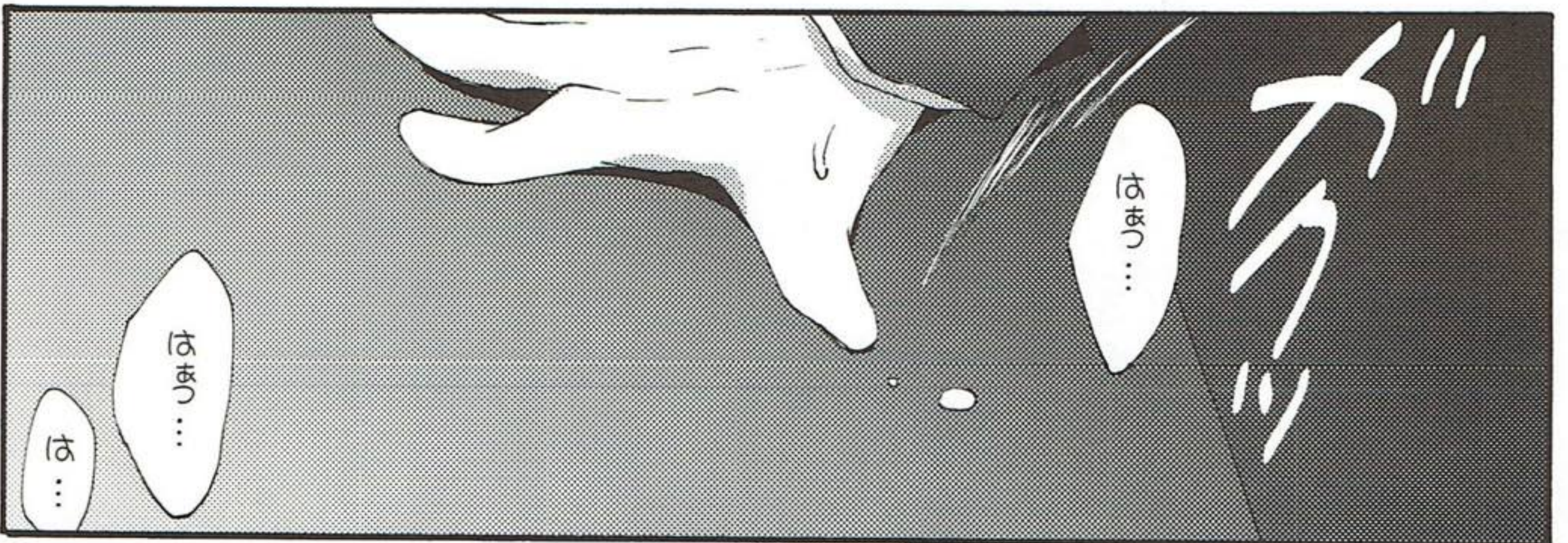
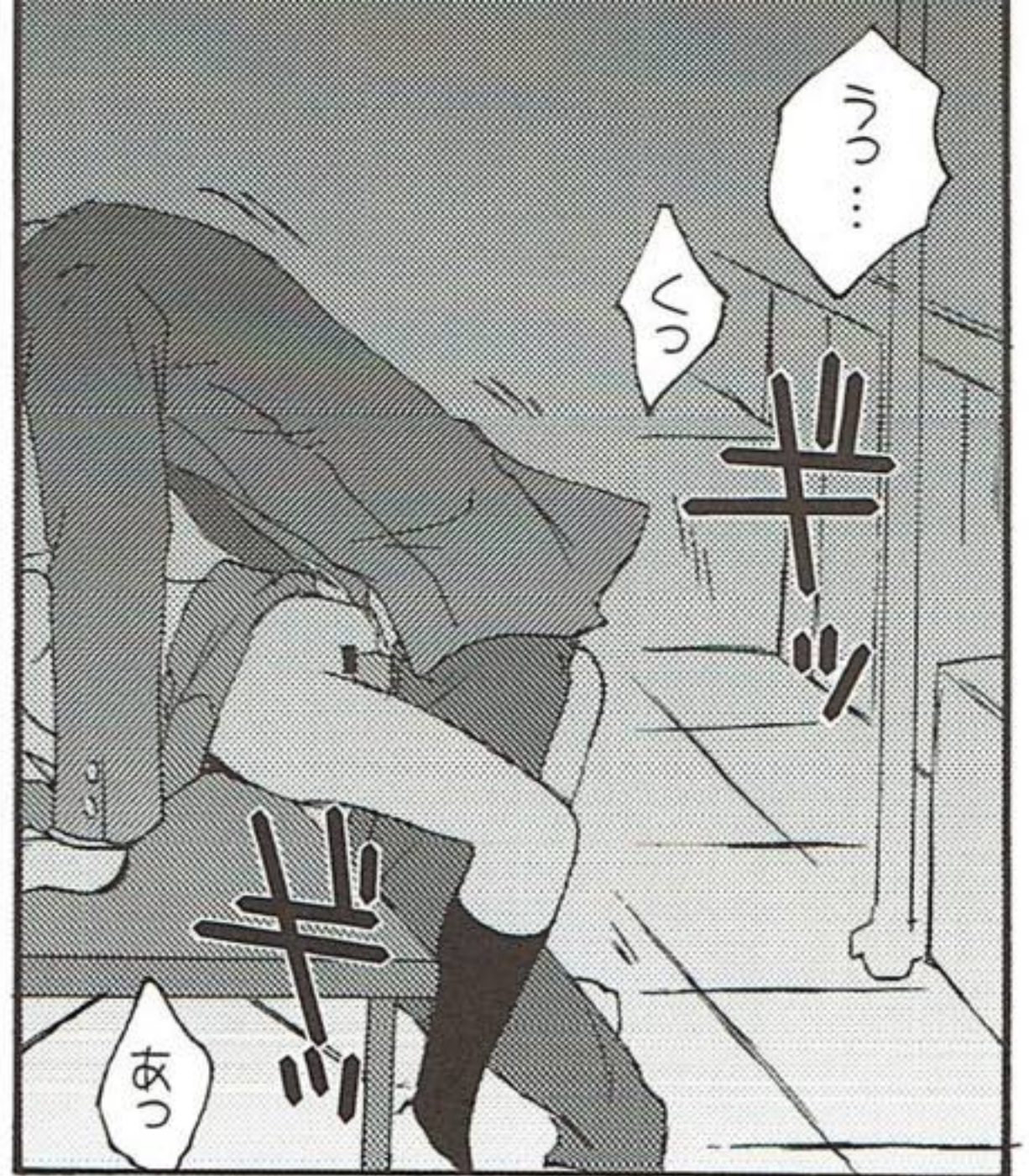
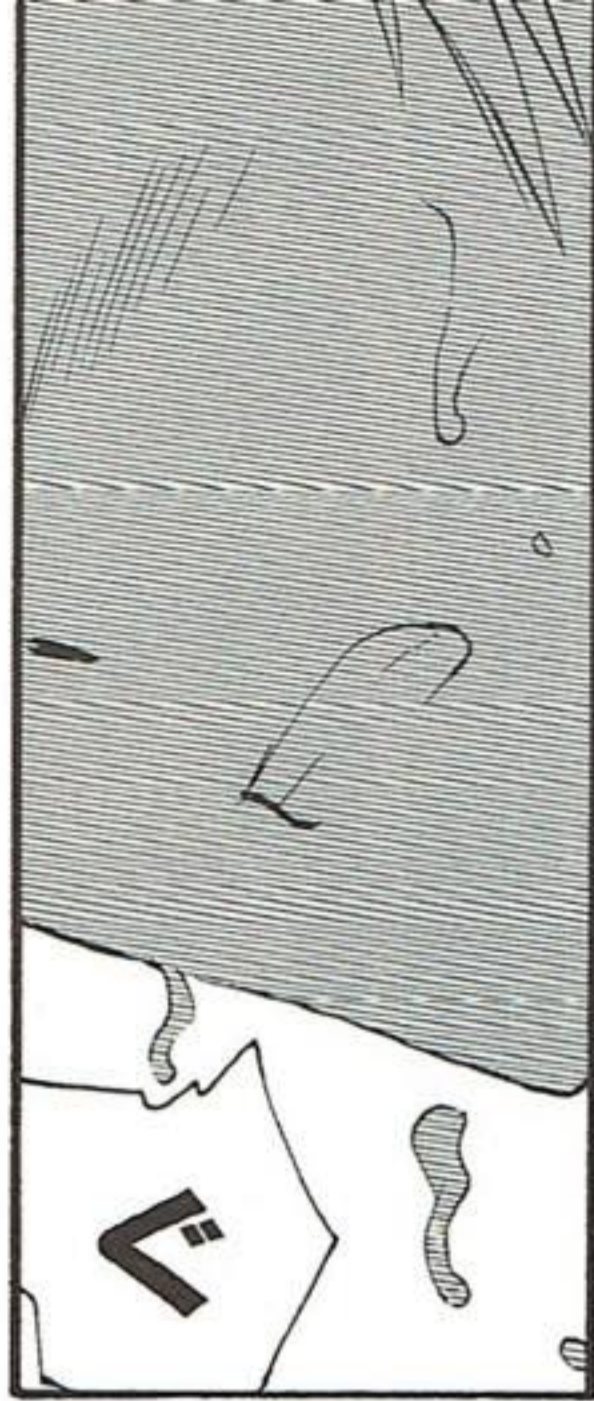
ハルヒと  
2人で  
見る世界だ

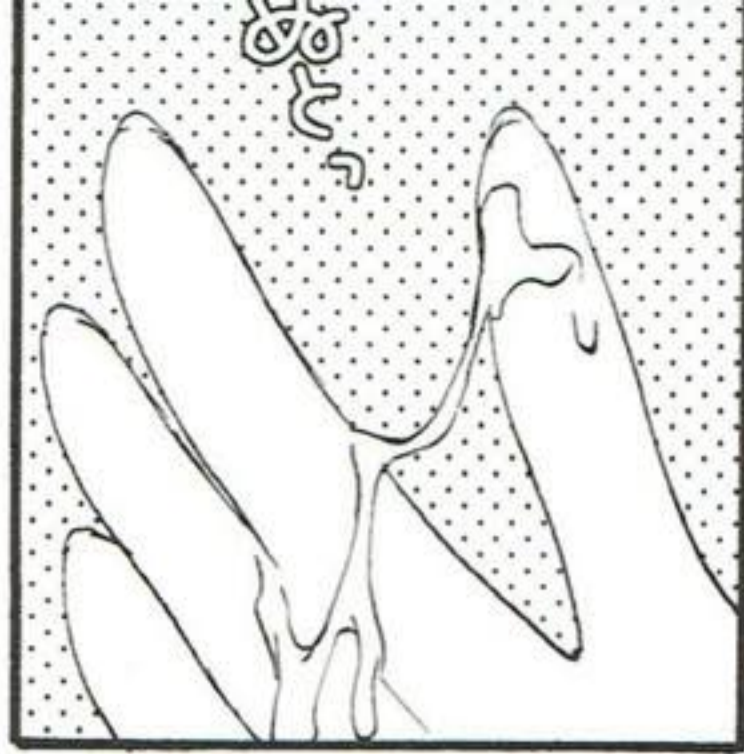
もう  
変な心配は  
するな













これが  
ツンデレか!!



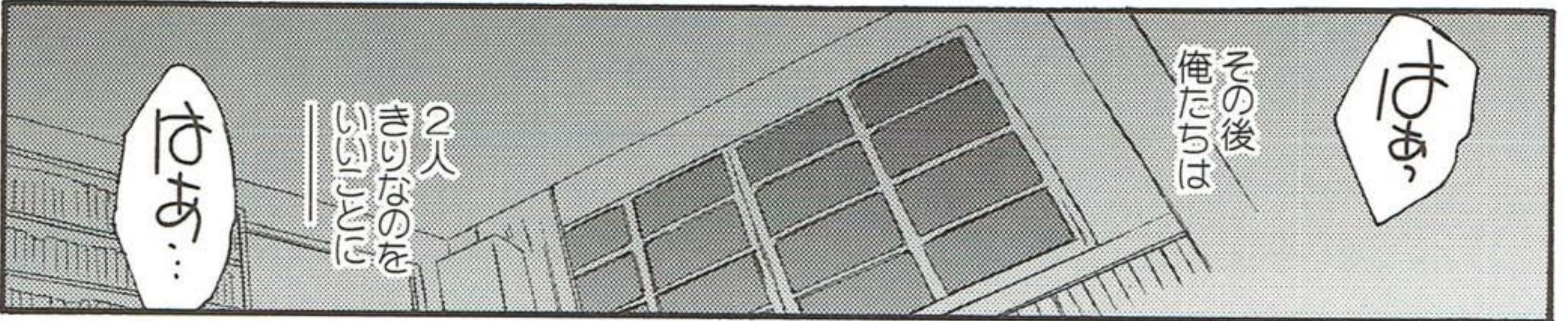
…



いいわ  
今日だけ  
許すわ

わ

わ  
\$  
\$

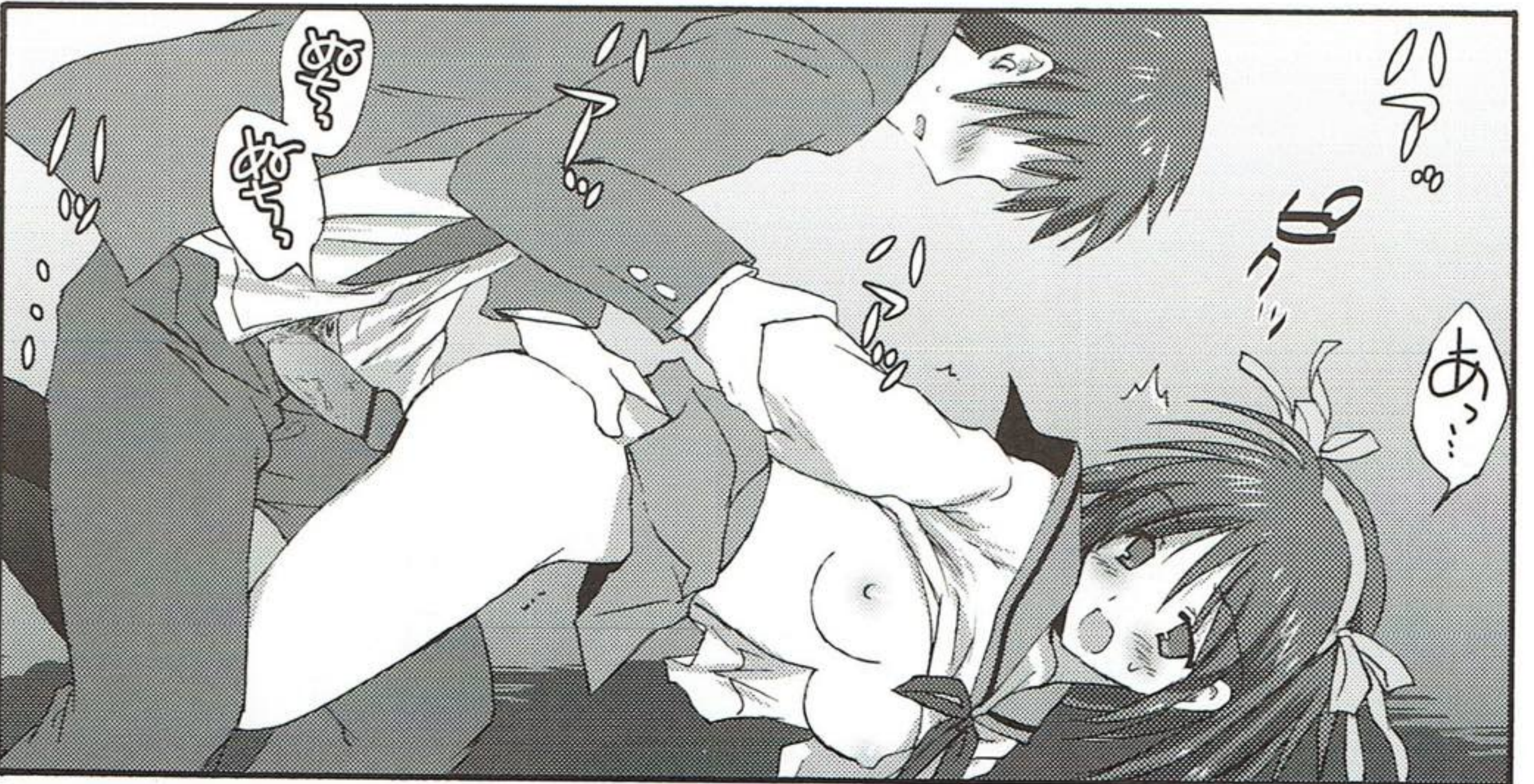


その後  
俺たちは

わあ

2人  
きりなのを  
いじめる

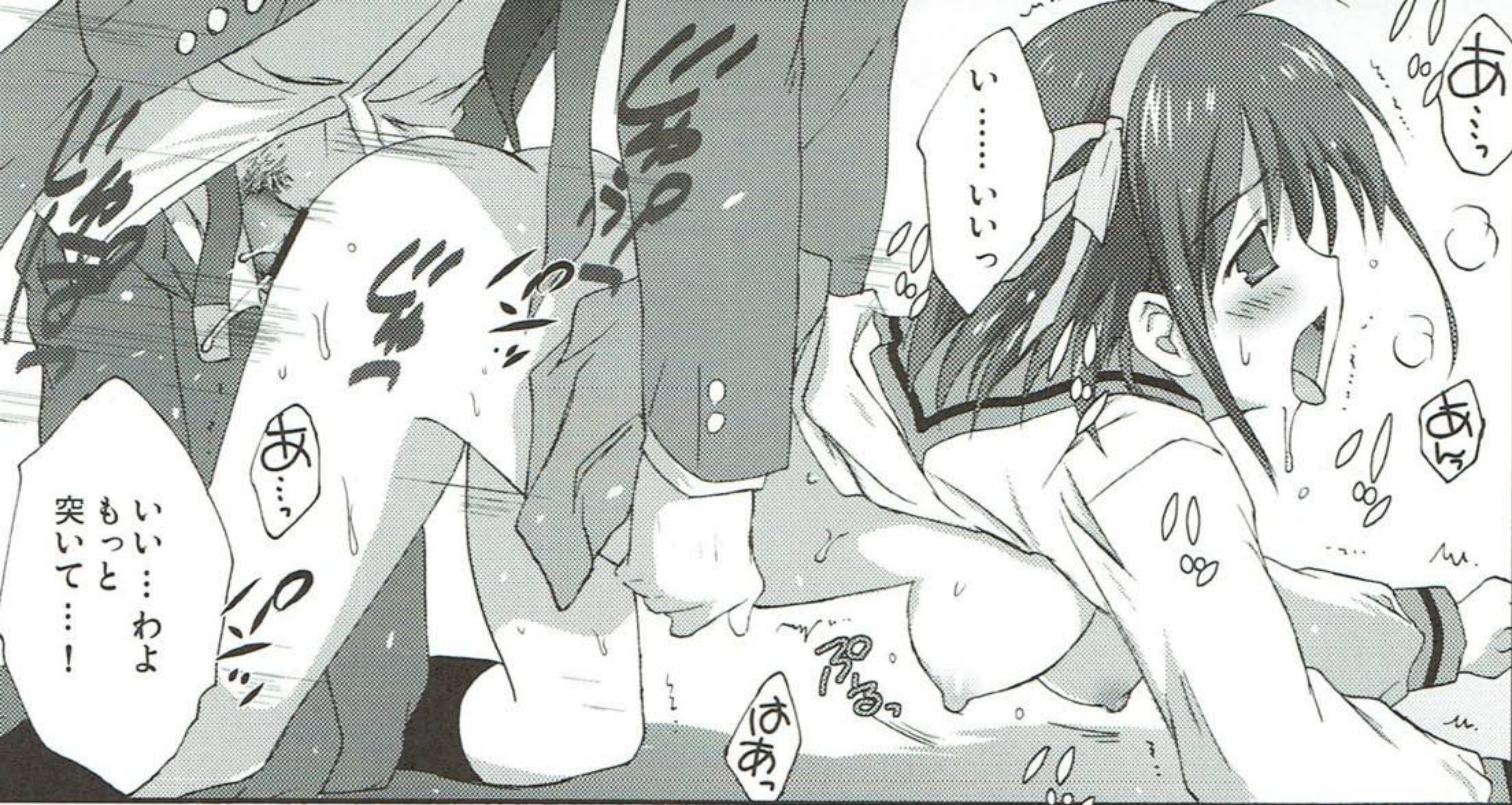
わあ…



あゝ

あゝ

わあ  
わあ

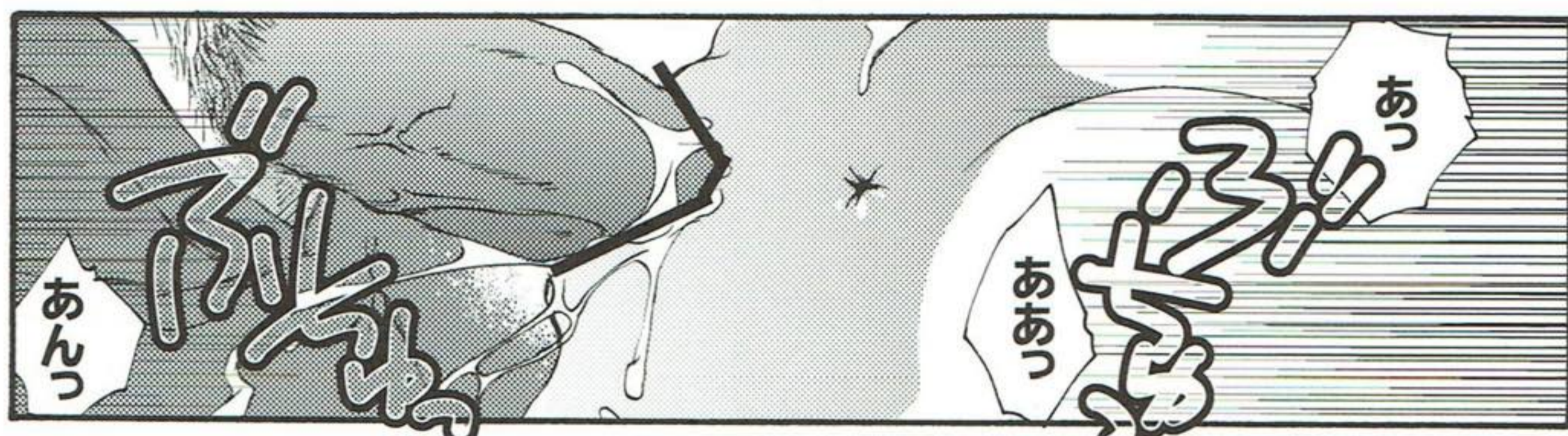


いい...わよ  
もっと  
突いて...!

あゝ

はあ

あゝ



あんっ

すっすっ

すっ



...って  
お前も  
感じてんだろ

ズッ!



バカあ...

激しすぎ...

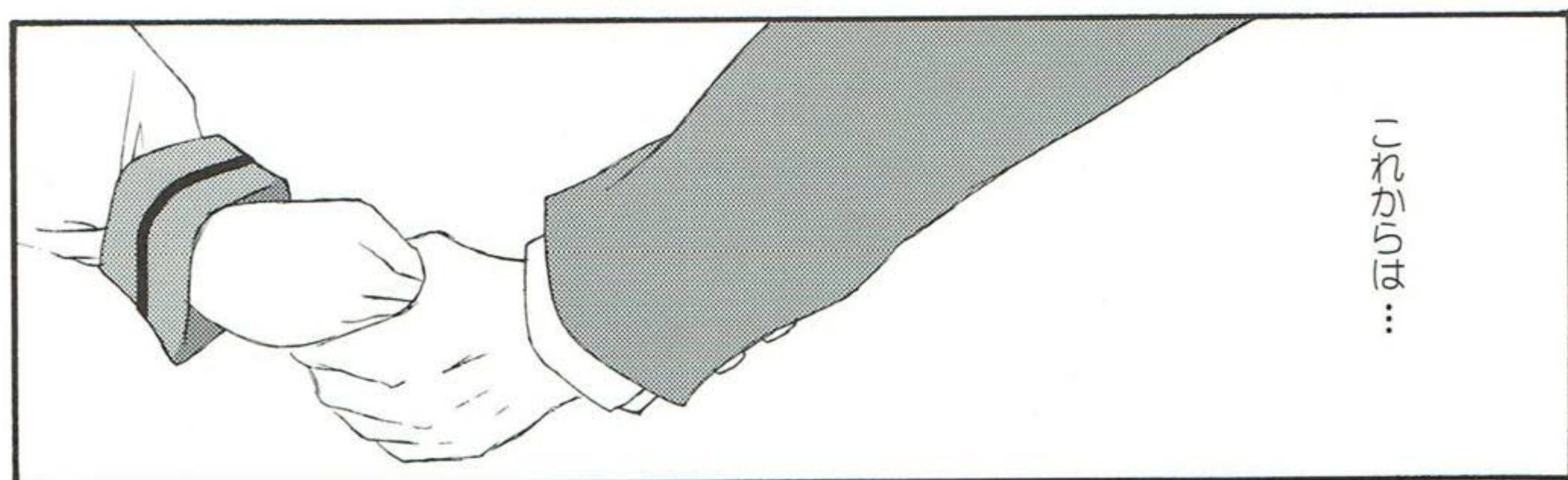
ちよっとお!

キョーン









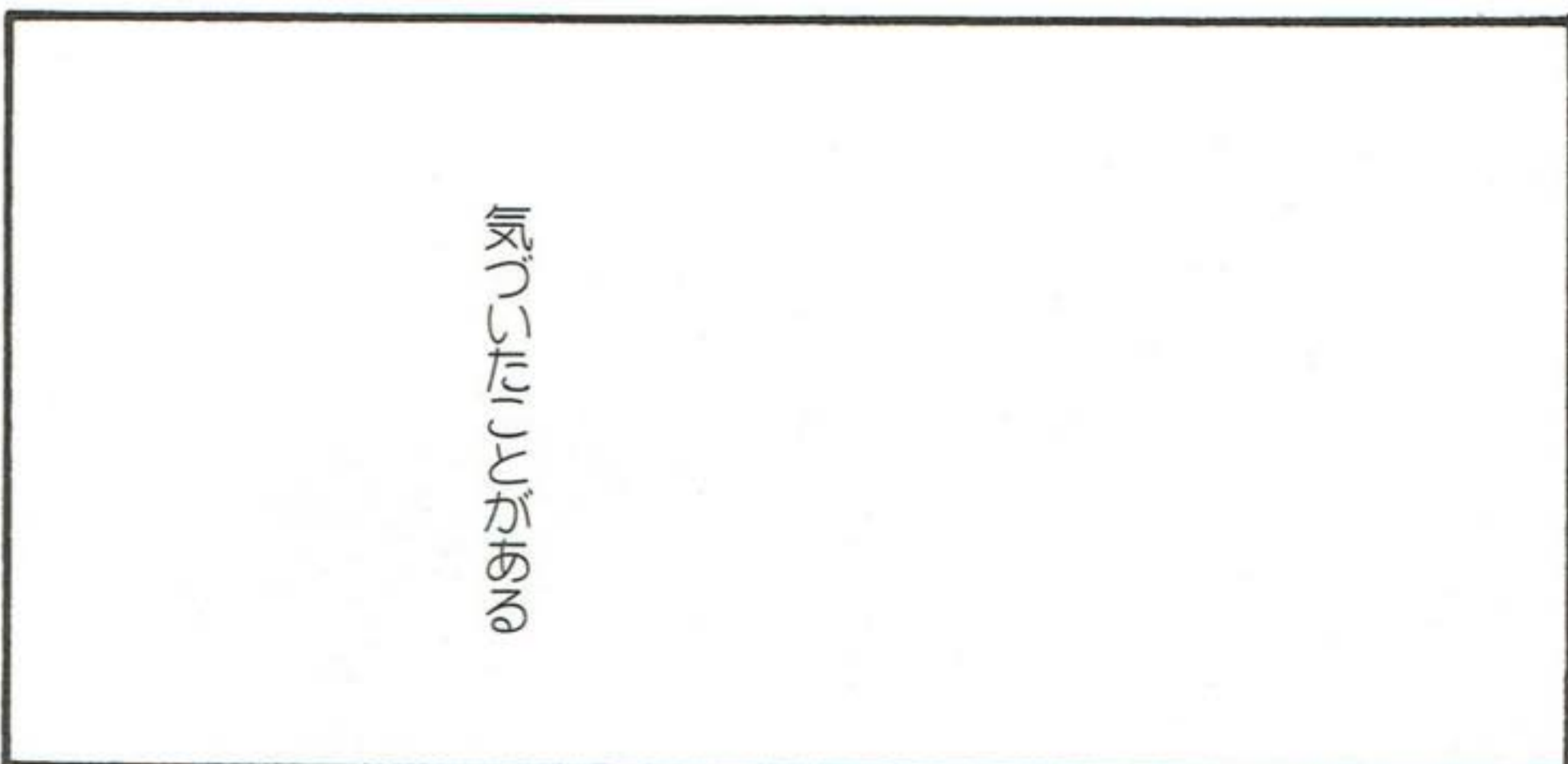
いざなな...



一緒に





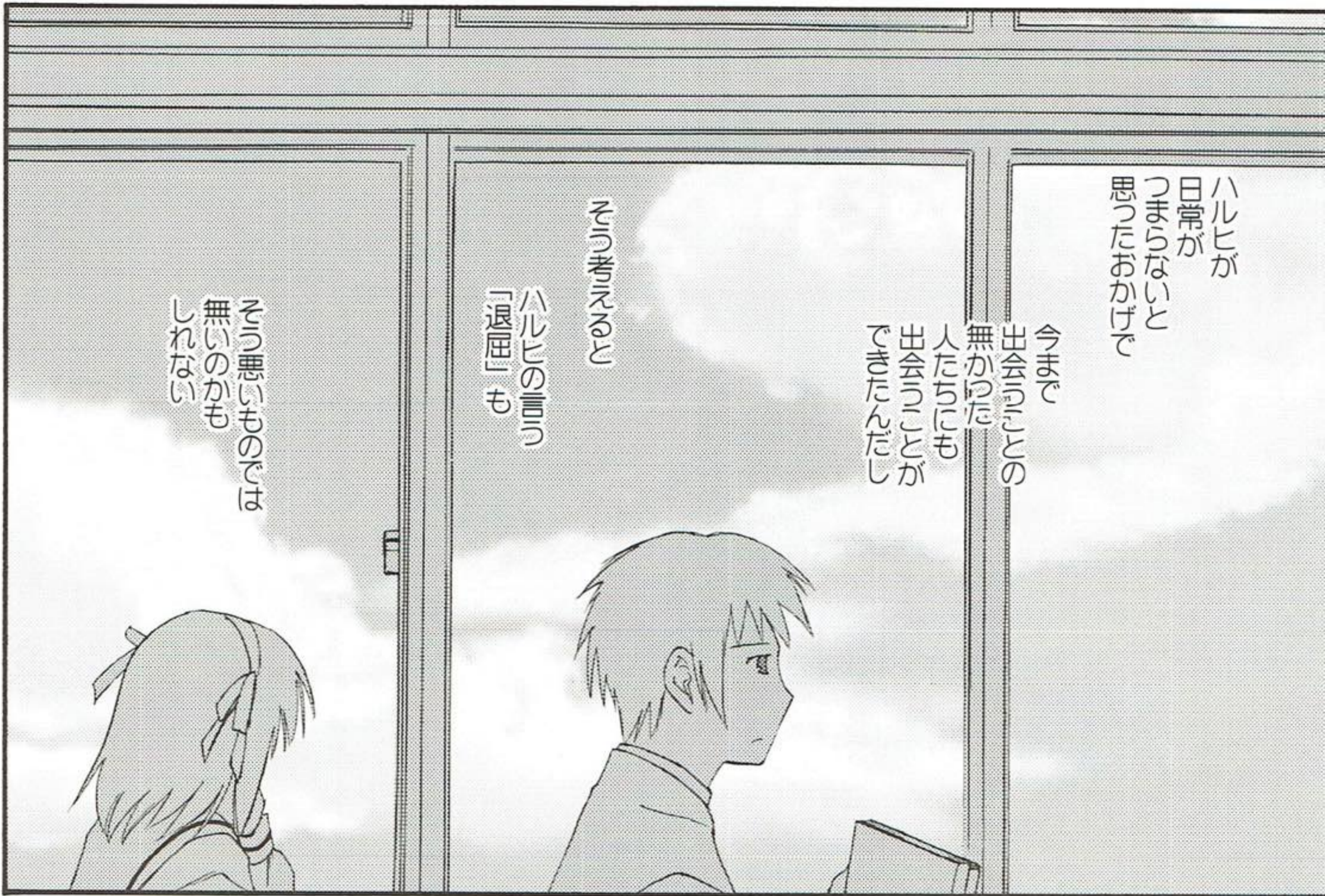


辛い時  
苦しい時  
楽しい時  
笑える時

何気なく  
過ぎていく  
時さえも

次に起る  
未来に  
出会うためには

ひとつも  
欠かせない  
要素に  
なつていこうSENSEIさん



ハルヒが  
日常が  
つまらないと  
思ったおかげで

今まで  
出会うことの  
無かった  
人たちにも  
出会うことが  
できたんだし

SENSEIさん

ハルヒの言う  
「退屈」も

SENSEIさん  
悪いものでも  
無いのかも  
しれない



.....



おーい  
キョン!

あ  
今行く



『 憂鬱の終わり 』

2008年12月30日発行

発行●こりすや

執筆者●こりす

印刷所●Complex 譚

連絡先●master@korusuya.kirara.st

Web サイト●<http://korusuya.kirara.st/>

※無断複製転載 Web アップロード禁止

※18歳未満閲覧禁止

※本書の内容はフィクションです



# The end of Melancholy